



5年間にわたり、
水と農業、そして
新潟の未来を探ってきた
シリーズも最終回。
「水利の恵み」を振り返り、
改めてその役割について
考えます。

木原四郎の 水利を歩く

新潟市在住のイラストレーター木原四郎さんが阿賀野川沿岸の地域を支える
水の流れを訪ね歩き、風景や人とのふれあいを描いていただきました。

in 阿賀野川沿岸

「水利を歩く」このシリーズは今回が最終回。
そのラストを飾るに相応しい、県内でも
最大のスケールを誇る阿賀野川頭首工を訪ねた。
阿賀野川土地改良区の理事長 松田昭悦さんに
会い、中央管理所にて施設の説明を聞いた。
建設時の映像資料を鑑賞、このスケールの大きさに
驚く。（工事の規模は全国で二番目）
様々な困難を経て、昭和42年に取水が開始された。
農業用、工業用、さらに一般生活用水と、
その用途は広い。しかし、老朽化も進んでいるとのこと。
晩秋の岸辺に立ち、見上げた頭首工は
実に雄雄しく見えた。

阿賀野川土地改良区
理事長 松田昭悦さん



イラストレーター
木原 四郎さん

1946年、佐賀県佐賀市出身。
「旅するイラストレーター」として
新潟県内を歩き、風景や人物を描き
続ける。独特の柔らかいタッチの
イラストと心温まる文章で人とモノとの
出会いを紹介し、人気を集める。
17年にわたり、NHK総合「金よう
夜 きらっと新潟」に出演した。

阿賀野市山崎にある
「エコファームやさかみ株、株式会社」を
訪ねた。取締役の清田寿幸さんに
お話を伺った。ここは、地元酪農家の
堆肥を使用した農業を積極的にすすめている。
米をはじめ枝豆などの農産物も栽培、首都圏
への出荷も盛んだ。そのご縁で消費者を招いて
農作業の体験ツアーも開催。田植えや草取り、
稲刈りなど、広々とした田園に親子や家族連れ
の歓声が響く。（今年度はコロナの影響で中止）
「やさかみ」のファンは確実に広がっている。



大地潤す恵みの水 豊穡の沃野を育む

新潟の農業への理解を深め、
その将来を考えたい5年間

「日本水土図鑑」というのをご存じだ
ろうか。全国の農業用排水路やポンプ場
などの水利施設を、農林水産省が都道府
県別に編集しているのだ。

そこには、水路を示す線と、施設を示
すマルがびっしりと日本の平野部に標示
されている。まるで大地を這（は）う毛
細血管のようだ。これが世界でも比類な
き「瑞穂の国」の壮大な生産装置なのだ。
誇るべき「国富」といってよい。

とりわけ、新潟平野の凝集ぶりは全国
で群を抜いている。整備されたこれらの
施設は、豊穡の沃野形成の基盤をつくる
とともに、私たちの暮らしの安寧や、社
会経済の発展にも貢献している。

この連続キャンペーンは、「コメ王国」
新潟の実現に大きな役割を担った農業水
利への県民理解を深めることが大きな目
的であった。そのために、各地の水利施
設に光を当てるとともに、そこで営農に
勤（いそ）しむ農業者と、生産される豊
かな産物を新潟日報紙面やフォーラムの
場で紹介し、発信してきた。果敢で新鮮
な企画であった。

いま、この平野を舞台に展開される農
業経営の胎動にも、近年は急速な変化の
兆しが見えている。そのひとつがスマー
ト農業への取り組みだ。現段階は実証実
験のため、「その先の新しい景色」はま
だ明瞭には見えないが、手応えは得られ
つつある。

ところで、広大なこの農地を潤す恵
みの水は、雪深く森と棚田の連なる中山間
地域が古里だ。そうした地域社会にも思
いを寄せる「流域の思想」を育みたい。

新潟をはじめ、全国の農山村を歩いて
きた農のライターこと石井里津子さんは、
「大地の実りがもたらす食は、いのちの源、
五穀豊穡を祈る祭りや文化は、わたしたちを
支える力」（天地の農カレンダー2021）
と農への温かいまなざしを送っている。
そのエールから、あらためて農の持つ底
力や確かな生命力に思いが深くなる。

この先の「水利が拓く実りの明日へ」
に期待が高まっていく。



新潟大学名誉教授
いとう 伊藤 忠雄さん

1944年、新潟市生まれ。67年、新潟大学農学
部卒。専門は農業経営学。同大教授、副学長などを
経て2010年に退職。15年3月まで放送大学新潟
学習センター所長。12年から5年間、県内の先進的
農業経営者を講師に招き、実践的経営論を議論す
る「新潟農業経営塾」を主宰。現在、新潟市農業活
性化研究センター名誉所長として新潟農業の課題
などを問題提起している。





「水利が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン

総括フォーラム 農業水利の展望を語る



5年間にわたり、農業水利の役割を紹介してきた「水利が拓く 実りの明日へ」キャンペーン。これまでの取り組みを総括するフォーラムが10月31日、新潟市中央区の日報ホールで開かれました。新潟食料農業大学（胎内市、新潟市北区）の渡辺好明学長が基調講演。県内の生産者や土地改良区の関係者らによるパネルディスカッションやフォトコンテストの表彰式も行われ、ライブ配信の視聴者を含め約120人が、地域を支える農業水利の展望を探りました。

基調講演

「水」の制御 manage/control 「水」との共生 coexist

《講師》新潟食料農業大学 学長
渡辺 好明さん

プロフィール

1945年、東京都出身。68年に農林省入省。構造改善局長、水産庁長官を経て、2002～04年、農林水産事務次官。その後、内閣総理大臣補佐官、（公社）全国農地保有合理化協会会長などを歴任。18年4月から現職。



水利施設は地域の宝 住民も参加し維持を

低湿地の新潟平野はかつて「地味にない湖」と呼ばれ、江戸時代は「鳥またぎ」と呼ばれるような低品質のコメしか作れませんでした。水路を築き、ポンプで排水することで全国一の「豊穡（ほうじょう）の地」となりました。国土は神さまが造ったかもしませんが、新潟の農地は農家、そして土地改良区が造ったと言えます。

近年、農業水利施設は農業だけでなく、治水などさまざまな機能を果たしています。1998年8月の集中豪雨では、深山ダム（栃木県）の水をそのまま流さず那須疏水の水路で迂回（うかい）させ、下流域の被災



パネルディスカッション

水利の未来 明日への提言

●出演者……………荒木 康男さん 新潟銀カルチャー代表取締役
駒野 亜由美さん 南ホーピン中沢代表取締役社長
保坂 一八さん 南グリーンファーム清里代表取締役
齋藤 義信さん 関川水系土地改良区理事長
渡辺 仁さん 新潟県土地改良事業団体連合会専務理事
新潟大学名誉教授
●コーディネーター……………伊藤 忠雄さん

スマート農業実証 集落守る手法模索



新潟銀カルチャー
代表取締役
荒木 康男さん

新潟市秋葉区で農地の担い手として設立されました。耕作面積は現在100畝余りで毎年増えています。国のスマート農業実証実験に参加しており、今秋には、オペレーター1人で2台のドローンを飛ばす実験を行いました。ロボットトラクターやロボットコンバインで協調作業することで、さらに効率化させることが当面の課題です。

人気デユオと連携 農業の魅力を発信



南ホーピン中沢
代表取締役社長
駒野 亜由美さん

1995年、旧越路町中沢地区に父が会社を設立、長女である私が継いで22年目となります。役員を含め7人で水稲のほかハウス野菜など約50畝を栽培しています。本年度は県の優良認定農業者の部・経営改善部門（女性活躍）で県知事賞を受け、責任の重さを感じています。一帯は78年の水害後、基盤整備が

「二農場化」目指し 区域の法人が連合



南グリーンファーム清里
代表取締役
保坂 一八さん

上越市清里区の農地の受け皿として1993年、設立しました。直営農地は18畝から150畝へ拡大、他の法人に転貸する関与面積を含めると現在は220畝に至ります。区全体の農地はおよそ500畝、かつては500軒ほどの農家で保全していましたが、現在はその85%の土地を14法人で担っています。われわれがハブとなり周辺の法人と

農家の所得向上へ 大区画整備を推進



関川水系土地改良区
理事長
齋藤 義信さん

管内の水田面積は5614畝。このうち1畝以上の大区画は場は完了、継続などを含めて約62%になります。上越市板倉区では北陸地方最大の4・2畝を整備。地域の事情にもよりますが、できるだけ大きくした方が、効率化が図れます。大区画は場整備と併せて進めているのがスマート農業です。高野生産組合

基盤整備を着実に 効率的生産下支え



新潟県土地改良事業
団体連合会専務理事
渡辺 仁さん

道路整備や河川改修など公費で賄う一般の土木工事は異なり、土地改良事業は、農家からの申請に基づき、その一部を農家が負担して行う公共事業です。「かんがい排水」農地整備「農地防災」などに分れます。本県用の排水路は、まるで人間の血管のようにはりめぐらされています。基幹的農業水利施設のストック

コメ王国を築いた 壮大な水のドラマ

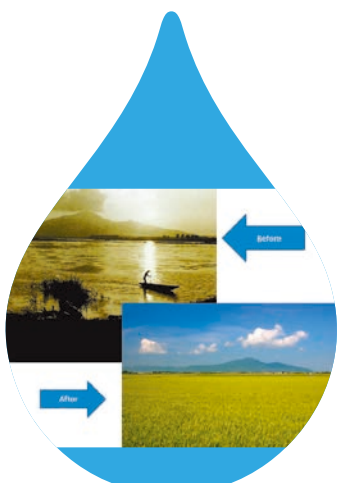


コーディネーター
新潟大学名誉教授
伊藤 忠雄さん

5年間にわたるこのキャンペーンで主権者が最も発信したかったことは、「コメ王国にいた」を築いた農業水利の歩みと、その役割を県民に広く知ってもらうことでした。取材で訪ねた農業水利施設の一つ一つに、その地域の水の歴史がありました。鯖川にある藤井堰（柏崎市）の石碑には「用水の一滴が血の

参加者の声

●パネルディスカッションでは非常に幅広く、多角的な話を聴けて良かったです。50代男性●よく知らなかった農業水利の今日的な課題を理解できました。さまざまな課題を何とか解決したいという熱意を感じることができました。自分も農の将来展望について考え、意見交換していきたいです。10代男性●農業水利が県の農業だけでなく、都市化した生活においても大きな役割を担っていることを改めて考えさせられました。40代男性●渡辺学長、素晴らしい講演でした。土地改良区の仕事に加わるべきではないでしょうか。50代男性●皆さんの農業に対する熱意が伝わってきました。70代女性



お問い合わせ

「水利が拓く 実りの明日へ」キャンペーン事務局
（新潟日報社広告部内）

新潟市中央区万代3-1-1 ●TEL 025-385-7474（土日祝を除く／10:00～17:00） ●ファクス 025-385-7476 ●Eメール minori@niigata-nippo.co.jp
●主催／農林水産省北陸農政局 ●共催／新潟日報社 ●後援／新潟県、新潟県土地改良事業団体連合会、JAグループ新潟 ●企画・制作／新潟日報社広告局

過去の紙面もご覧いただけます／

キャンペーン 特設サイト

水利が拓く 実りの明日へ

